

幼 兒 の 健 康 保 育 (六)

お茶の水女子大學助教授
愛育研究部所員

平 井 信 義

五、視診と病氣の

早期發見(つゞき)

前回までは、傳染病を中心に、それを早期に發見し早期に隔離するためには、朝の視診について、どの様な點に注意したらよいか、というお話をしました。その一番の主旨は、子供を集團的に取扱うときに、もし不注意で傳染病の子供が一人でもその中に入つたとしたら、どんな不幸が起きるかを、皆様方と考へ合いたかつたのです。風邪とても傳染病、之に氣を許していると、次から次へと子供が風邪に罹り、その中には氣管支炎・肺炎を起して、生命にも拘る目に合う様な子供が出てくる、という事も解つていたゞけたと思ひます。

今日は傳染病以外で、子供の健康に何か異常があるかどうかを、どんな點に注意していたら發見できるかに就いてお話ししましょう。

私共が經驗して、最もたしかに見て取れる變化は、目の輝

きとその動きであります。目の輝きが失せ、その動きが鈍いときはその日にはつきり病氣と云えないでも、二、三日すると、必ず何か病氣が現れて來るものであります。體の病氣ばかりではありません。子供の心を暗くする様な出來ごとが子供の心を占めている時には、子供の目は虚ろであります。

私共の幼稚園で、いつもリーダー格になつていた非常に元氣な男の子が、或の日の視診のとき急に目の輝きを失つたことがありました。そこで觀察室からつゞいて見ていますと、元氣に遊んでいる様ですが、どうしても目の輝きがないのです。そこで私は保母さんに注意しますと、保母さんも變だと感じている。そこで様子を見ようということになりました、が、間もなくその子供の母親が來て、夫に女が出來た爲に、家の中に波亂があつたことを涙の中にきかしてくれました。その母親は實におとなしい辛抱強い人でしたが、その後やはりいさかいをして、顔や足に傷まで負わされて私のところに來たこともありました。遂に決心をして別れたのですがそ

の後その男の子が、再び輝いた丸い目で、他の子供たちの喧嘩を仲裁し始めた時には、本當に私共は安心したものでした。

この他、虫がわいたとか、ビタミン類が缺乏しているとか、結核菌に感染したとか、病氣の極く初期に、目の輝きが消えますから、よく注意していて早目にお醫者に診て貰うことをすゝめたいと思います。ですから、先生方も御自分の目——顔についてる目と、こゝろの目をよく澄ませて、子供たちの朝の目を、一瞬じつと見詰めていただきたいものであります。夜更しの朝寝坊で、子供たちよりおくれて幼稚園や保育所にかけてつける様では、なかなかむづかしいことでしょうが……子供たちがやつて来る前に、幼稚園、保育所の玄関に子供たちを迎えるこゝろでありたいと願います。

第二に健康の目安となるのは顔色でしょう。それは顔の色が青いか赤いか、というだけに止らず、皮ふのつや、張りがよいかどうかの判断も大切であります。之を評價するにはほんの少し熟練が要りますが、皆様の受持つて居られる子供たちについて、どの子がよいかどの子が悪いか、という様に一度評價して御覧になるとよいでしょう。

顔色の特に青い子供については後に再びお話しする豫定で居りますが、食餌性の場合と、十二指腸虫によるとき、その他の貧血、大きな病氣にともなうもの——この四つの場合が考えられます。之ら原理から考えますと、全體として赤血球が減つた場合、赤血球は普通の數だが赤血球の中の色素が少い場合、赤血球も色素も少い場合——この三つがあります。

之らに就ては身たぶから血液を一滴取て調ればわかります。

この他に血液をしらべても、別に異常のないこともありますから、顔色の青い子供を見た際、皆さんがたは、一應子供の目をむく（赤んべをしてみる）のがよいと思います。結膜が赤ければ、顔色は青くとも、血液の問題ではないことがわかります。そんなときはむしろ體質を考えるべきでしょう。日光の少いよごれた空氣の中で不潔な生活をしている子供に多いことも考え合せましょう。

次に大切なのは、元氣と動作でしょう。「先生おはよう」とその子その子の表現で、元氣よく挨拶をすれば安心ですが、何だか今日は動作がのろいな、と思うと、果して十時頃になると悪いお通じをもらしてしまつた。という様な事件になることがあります。

以上三つの點を申述べましたが、これら一つ一つに就いて子供をじろじろながめないでも、一瞬で判断がつく様になるのは、たやすいことです。それは、たつた一つ毎朝々々視診の時間を催けて、一人づつの子供を見ることです。

子供に面と向うことです。そして慣れてくれば、先生方は、一々子供を右向け左向けさせないでも、直ちに變化を見てとることが出来るのです。

視診と清潔

視診が、傳染病の隔離と、病氣の發見とにあることは既に述べたところですが、もう一つ大切なことは、子供の清潔の

状態を見ることであります。

子供の清潔について知ること、一つには子供の健康との関係を知ることになりますし、もう一つは、母親が子供の衛生にどれ程關心をもつてゐるかを知らねばなりませんし、もう一つは、先生方が健康教育をした結果がどう現れてゐるかを知らねばなりません。

子供の健康との關係は、例えば清潔な子供は病氣をしないかどうか、不潔な子供に病氣が多いかどうか、という點について云われることですが、實際にしらべてみますと、必ずしもすぐには關係がつきません。つまり不潔な子供にも餘り病氣しない子供があることは確かであります。むしろこの點で早急に効果を収めようとするのが無理な話で、清潔とか保健成果は二年先、三年先に現われて来るものなのであります。

次に母親の問題であります。結局清潔かどうかは、母親がよく子供の面倒を見てゐるかどうかにかかっています。成程男の子は女の子よりも活動がはげしいから、からだも着物もよごれやすいのは當然ですし、男の子の中でも活動家と靜かな子供とはちがひがあります。とはいへ、そうした活動の後始末がされるかどうかは、母親の手にかかっています。

いつも目やにを溜めて登園してくる子供、——恐らく顔を洗つて來ないのでしよう。子供に「洗つて來たの？」ときき、ますと、「うん」と首を横に振ります。子供は正直です。こんな子供のお母さんにきいて御覽なさい、恐らく「うちではよくしつけております」とすまして答へることはないでし

ようか。その他、耳が汚い、爪が伸びてゐる。膝が眞黒、肌濡れが垢じみてゐる——みんなお母さんの養護の問題です。

といつても、直ちにお母さんを責めることはしたくないと思ひます。何故この様に子供を不潔にしてゐるか、その原因を探つてみようではありませんか。原理的には母親の賢さ、注意力、實行力、そして經濟力によつてゐるのでしよう。實際に、子供が五人も六人もいて經濟的に豊かでない家では、母親の手一つではなかなか廻り切れないものです。養護がゆき届くかどうかは、どうしても時間と手があるかどうかの問題と、或る程度併行してゐます。もとより、澤山の子供があつても、實に上手に子供の面倒をみてゐる天才的な母親もありませんが……。子供が澤山のあまり、子供の面倒がみられないときには、幼稚園や保育所で多少でもそのお手傳いをする様に心掛けたいものです。先生方も一層お忙しいでしょうが、子供たちを家に歸すときに、一寸その子供を残して爪でも切つてやりましょう。顔もふいてやりましょう。養護のゆきとどかない家庭では恐らく教育の上でもゆきとどかない點が多くみられはしませんか、もし子供にゐる問題があるならば、しばしば家庭訪問をして、母親に、教育の重點を——どこにおいたらよいかを教えたいものであります。これはなかなかむづかしいことでしょうが、繰返して申上げます様に、教育でも養護でも、家庭——子供——幼稚園・保育所即ち母親——子供——先生、のつながりが密接でないと、よい効果は期待出來ないのであります。

問題が横道にそれましたが、不潔な子供の原因についての話に戻りましょう。不潔な子供の中には、家庭で女中まかせにされているものがあります。その女中がよく注意が行届けばよいが、そうでないと放り出されている結果になります。又、母親が自分の身の廻りのことに忙しかつたり社交家だつたりして子供がきたない格好をしていることがありますが、この様な母親を上手に指導することもなかなかむづかしいことです。話をしてきかせれば「はいはい」とわかるのですが子供に積極的な興味を感じていないことが多いのですから。……。こんな場合には、母の講座などでえらい先生方の講演をお願いするのも一つの方法でしょう。それをしても母親の方で缺席するかも知れませんが。

この様にして、一つ清潔の點をつかまえてみても、その後には母親の問題が控えていますし、家庭の問題がからまつて来る場合もあります。私共は、その後関係をよく見抜くことが大切です。但し、その際「あの子のお母さんはしようがないこと！」と責めることはしたくない、又あきらめることもしたくない、私共はそれらの母親に、それぞれどんな教育をしたらよいかを考えたいと思います。

子供たちは、幼稚園・保育所だけの幸福ではいけません。ここでの幸福は家庭に持歸らねばならないのです。家庭がその幸福を素直にうけ入れる様に、幼稚園や保育所では幸福な子供をそのまま受取つてくれるような家庭であつてほしいのです。その爲にはどうしても母親教育をしなくてはなりません。

これが缺けていては却つて子供に幼稚園と家庭とのギャップを感じさせる様なものでしょう。幼稚園ではやかましくお便所へ小便をする様に云われているが家庭では縁側から庭先に向けて放尿するのを何とも思っていない様では困るのです。

もう一度申しましょう。幼稚園・保育所——子供——家庭この三者が、いつも同じ教育の線の上にあること、先生と母親と同じ右手を握り合つて、子供の教育をしてゆくことを私共は望みたいのです。その意味で朝の視診によつて、子供の清潔の具合をみながら、あれこれ人のこと、世の中のこと、制度のことを考えることは本當に大切です。先生方にとつて考えることは何より大切なこと、信じます。

さて、どんな點で清潔の様子をしらべたらよいか。既に申しました様に、顔から始めて、手・からだ・足・と見てゆけばよいでしょう。顔は、目やにがあるか、鼻汁がでているか、鼻汁も濃いかうすいか、口のまわりがよごれていないか、耳の殻や目のつけ根に垢が付てはいないか、首筋は綺麗か、手は汚れていないか、爪は伸びていないか、爪に垢が溜つていないか、肌着はどうか、膝は………それにエプロン・ハンケチや手拭は綺麗だらうか。着物を着せ過てゐることはないだらうか。慣れないうちは項目を書いて置いて照し合せてみるか、子供についてそれぞれ a、b、c で評價してもよいでしょう。これらを書き並べると随分大變な仕事の様ですが然し慣れると本當に一と眼です。殊に清潔度の要點としては爪と

耳を見れば大體分ります。「爪がのびていますね」と母親に注意すると、「ついこの間切つたばかりですのに」と返事しますが、その「この間」が二週間前だつたりしますし、或は爪の方でも成長が早く、一寸油断していると、すぐ伸びてしまいます。

伸びた爪の間の垢、——これをほじくり出してけん微鏡でみてみますと、澤山のばい菌や蛔虫・蟻虫の卵が発見されます。こんな爪でかゆいところをかはせば、皮ふの中へばい菌をねじ込む様なものでしようし、従つていつも膿をもつた傷をこしらえている子供になるでしょう。又、蟻虫がわいて、神經質な子供も出来るでしょうし、鼻から蛔虫がとび出した急な熱が出た、お腹をいたがつた、と蛔虫さわぎをしなければならぬことにもなりましよう。

耳の垢も、猫の耳の様に黒々としていたる様では、切角きれいな服装をさせて寄越しても、本當にがつかりです。母親に注意しますと、「耳はいじるのがこわくて」などと辯解しますが、こわいのは耳の穴の中でこゝはいじると危険ですが耳鼓の處はこすつても一向さしつかえないのです。こんな母親にかぎつて、耳の奥をマツチの棒や耳かきでつゝいて外聽道炎を起し、お醫者にゆかなくてはならぬ様にするのです。

秋口になると、厚着の子供がふえて來ます。上から一枚・二枚・と敷えていると五枚にもなる子供がいます。大概におばあさん子・獨りっ子ですが、肌着はすつかり汗をかいています。こんな子供こそ風邪ひき易い子・弱い子になつてしま

いますから、早速手拭いで肌の濕氣をとり、薄着にしてやりましよう。何んとかして家庭でも薄着でいられる様、指導しなくてはならないのです。既に述べた様に、風邪は傳染病であります。そして厚着は皮ふの抵抗を弱め、却つて風邪をひかせる誘因であることをきかせましよう。厚着をさせると風邪をひく——之を標語にしたいものですし、この方面のお話は是非とも母の講座でお醫者にしてもらいたいと思ひます。

以上で朝の視診のお話を終ります。大層長くなつてしまいましたが、朝の視診は健康保育の中心であります。視診がうまくゆかなければ健康保育の成績はあがりません。どうか一秒でもよい、二分の一秒でもよい——子供の一人々に面接して、子供の一日の生活の見透を立て、やつて下さい。傳染病らしい子供はすぐ隔離して下さい。目の輝きのない子供はよく見守つて下さい。耳・爪のきたない子供はその原因をさがして母親の指導方法を、つかんで下さい。

これらを通じて健康教育が着々と成果を上げていくかどうか、この視診によつて表れて來ます。今迄不潔な點の多かつた子供が、きちんとして來た、少し咳が出ていると、「今日は休ませますから」と連絡してくる、といつた具合です。そうなれば本當にうれしいことです。子供たちも一層幸せになれます。幼稚園・保育所は、本當に子供たちの世界になります。それは又、次の時代を子供に託している私共大人の幸せでもあるのです。